

※一部非公開

令和2年度入学試験問題（後期日程）

## 小論文

医学部 保健学科

### 注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配布するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分です。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

## 問 題

次の A, B, C の文章を読んで、各問いに答えなさい。

A

非公開

非公開

B

非公開

非公開

C  
非公開

## 非公開

(永田和宏, 『知の体力』, 新潮新書, 2018年, 11~34ページ, 抜粋・一部改変)

- 問1 下線部①「意識の上で断絶させることから, 大学教育を始めるべき」の理由について, 著者の意見を高校までの教育と大学における教育の違いを明確にした上で, 350字以上400字以内で説明しなさい。
- 問2 下線部②「能動的に聞く」という態度は, 研究場面だけでなく, 医療現場において患者の状態や症状を聞く際にも共通する基本的態度である。どのような点で共通していると思うか。あなたの考えを350字以上400字以内で説明しなさい。
- 問3 下線部③「37兆という数字」について, 著者は「〈真理〉なるものへのあこがれに近い感情を刺激してくれるもの」と述べているが, あなたにとって「37兆という数字」とはどのような意味をもっているか。あなたの考えを250字以上300字以内で説明しなさい。

令和2年度入学試験（後期日程）

## 小論文

医学部 保健学科

### 出題の意図

本学科のアドミッションポリシーは、看護、臨床検査、国際・地域保健等の分野でリーダーシップを発揮し、活躍できる人材の育成を目指す。そのために必要な資質である、生命を尊重する倫理観や相手の立場に立ったリーダーシップ、他者と協働でき、理論的に思考し、客観的解決の意欲がある等の資質や適性を判定する。

## 解答のポイント

問1 下線部①「意識の上で断絶させることから、大学教育を始めるべき」の理由について、高校までの教育と大学における教育の違いを明確にした上で、350字以上400字以内で説明しなさい。

下記の「**実社会で求められること**」「**高校までの教育**」「**大学における教育**」が説明でき、「誰かに尋ねれば、必ず答えがあるはずだ、与えてくれるはずだという依存性から脱却する必要がある。」と「大学の大切な役割の一つは、高校までの教育と実社会とのあいだのバッファーとしての役割であること」が述べられていること。

### 実社会で求められること

- ・実社会に出て、答えのある〈問題〉というのは、実は何ひとつない
- ・何一つ絶対的な答えというものがない
- ・これまでに教わってきた解き方、対処の仕方では対応できない問題に遭遇したとき、どのように自分で考えられるか、どのような解法を模索できるか、実社会に出れば、それは待ったなしの要請として現前するはずのものである。

### 高校までの教育

- ・小学校から高校まで、誰もが一貫して、問題には必ず答えがあるということを前提とし、正解は必ず一つであるということが初等中等教育における「問題」の大前提である教育

### 大学における教育

- ・問いがあつて答えがないという、それまでに経験したことのない宙づり状態に耐える知性や答えがないということを前提に、なんとか自分なりの答えを見つけようとする意志を身につける教育

問2 下線部②「能動的に聞く」という態度は、研究場面だけでなく、医療現場において患者に状態や症状を聞く際にも共通する基本的態度である。どのような点で共通していると思うか。あなたの考えを350字以上400字以内で説明しなさい。

下記の「研究」と「医療現場」での共通点について、記述されていること。

研究	医療現場
私は、自分の研究をおもしろいと思えるのと同じ程度に、他人の研究をおもしろいと思えるかどうか、発表者のデータを自分のものとして考えようとするれば、いきおい、さまざまなディテールに関して知ろうとするのは必然である。	患者の状態や症状に興味関心を寄せること
発表された内容を、当事者として自分ならこういうアイデアで実験…	患者の訴えを自分のことのように考えること（当事者意識）
発表された内容を、当事者として自分ならこういうアイデアで実験をし、結果をこう解釈することもできる、明確な結論を得るためにはこの部分に不備があり、次にはこんな実験を計画すれば、もっとはっきりした結論に到達することができるのではないかなどなど、考え始めれば、おのずから尋ねたいことは次から次へ出てくるはずなのである。	患者の訴えだけが全てとは限らない。むしろ、訴え以外に治療やケアに必要な多くの重要な情報が隠されている。明確な治療法やケア方法を得るためには、この情報が不足しており、この情報があれば、患者の個別性に沿った治療方法やケア方法が見つかり、病気の治癒や症状の緩和することができるかもしれないなど、考え始めればおのずから尋ねたいことは次から次へと出てくる。
外部からインプットされてくる内容と、既存の自らの知識の箱とのあいだに軋轢が生じるのは当然であり、その軋轢こそが質問を促す力になる。	保健・医療・福祉では、生活環境や生活背景が異なるヒトを対象とすることから、同じような疾患でも、患者の状態や症状の訴え（外部からインプットされてくる内容）と、教科書に書かれていた内容（既存の自らの知識の箱）との間に軋轢が生じるのは当然であり、その軋轢こそ質問を促す力になる。
「能動的に聞く」とは、話された内容を、自らのこれまでの知の体系のなかに位置づけることであり、位置づけるためには、聞きつつ常に自分の知の体系を確認し、照合する作業を伴うはずである。質問は発表者自身に示唆を与えるだけでなく、それは発表された新知見を、自分のなかに組み込んで、知識の展開を図り、新しい知の体系を獲得する作業でもある。	「能動的に聞く」ことは、患者自身により良い治療法やケアを与えるだけでなく、それは患者の訴えなどの新知見を、自分のなかに組み込んで、知識の展開を図り、新しい知の体系を獲得する作業でもある。このような症例を通して、医療者は患者から多くのことを学び、新しい知の体系を獲得し自己成長できる。



問3 下線部③「37兆という数字」について、著者は「〈真理〉なるものへのあこがれに近い感情を刺激してくれるもの」と述べているが、あなたにとって「37兆という数字」とはどのような意味をもっているか。あなたの考えを250字以上300字以内で説明しなさい。

生徒の学問に対する探究心と主体的に学ぶ意欲について、自分の意見を論理的に説明できるかを問う設問である。